

立命館大学大学院
2020年度実施 入学試験

専門職学位課程

【専門職大学院】
経営管理研究科
経営管理専攻

プログラム	入試方式	実施月	論述	
			ページ	備考
マネジメント	社会人入学試験(筆記試験型)	10月	P.1~	
		1月	P.4~	
		2月	P.6~	
	社会人入学試験(企業等推薦型)	10月		
		1月		
		2月		
	社会人入学試験(自己推薦型)	10月		
		1月		
		2月		
キャリア形成	一般入学試験(筆記試験型)	10月	P.1~	
		1月	P.4~	
		2月	P.6~	
	外国人留学生入学試験	10月	P.1~	
		1月	P.4~	
	学内進学入学試験	7月		
		10月		
		1月		
		2月		
	APU特別受入入学試験	7月		
		10月		
		1月		
	飛び級入学試験	10月		
		1月		

【表紙の見方】

P.●…入学試験問題の掲載ページを示しています

×…入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの

斜線…学科試験(筆記試験)を実施しないもの

2020年10月24日

2020年度実施（2021年4月入学）

立命館大学大学院 経営管理研究科（専門職学位課程）

論述試験問題（全方式共通）

<試験にあたっての諸注意>

- ・試験時間は、60分です。
- ・持ち込み許可物件はありません。
- ・解答は別紙「解答用紙」に記入すること。

以下の**問題－A**もしくは**問題－B**のいずれか一つを選び、解答しなさい。
なお、解答は所定の解答用紙を使用し、問題記号を記してから始めること。

問題－A

【資料】のSDGsの17の目標を参照して、以下の2問全てに回答しなさい。

問1

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは何か、説明しなさい。（10行以内）

問2

企業がSDGsの達成のために取り組むことの意義について、できる限り具体例に言及しながら論じなさい。（15行以内）

【資料】 SDGsの17の目標



（出所）環境省ホームページより。

<以下、余白>

問題－B

このたびのコロナ禍により国家・自治体・医療機関・業界・企業等は様々な難しい対応を迫られた。この点に関わり、以下2問に全て答えなさい。

問1

コロナ禍への対応が上手く行った組織の例と上手く行かなかった組織の例を挙げ、それぞれの組織がとった対応について15行以内で記述しなさい。

問2

またその違いが何に起因するのかを15行以内で論じなさい。

なお、例として取り上げる組織は、国家レベルでも業界レベルでも企業レベルでも構わない。

<以下、余白>

2021年1月23日

2020年度実施（2021年4月入学）

立命館大学大学院 経営管理研究科（専門職学位課程）

論述試験問題（全方式共通）

<試験にあたっての諸注意>

- ・試験時間は、60分です。
- ・持ち込み許可物件はありません。
- ・解答は別紙「解答用紙」に記入すること。

以下の**問題－A**もしくは**問題－B**のいずれか一つを選び、解答しなさい。
なお、解答は所定の解答用紙を使用し、問題記号を記してから始めること。

問題－A

新型コロナウイルスの影響を受けて、経済成長率がマイナスになっている中、アメリカや日本の代表的な株価指数は2020年3月の最安値から大幅に上昇している。このような株価上昇等に関する下記の事項について論じなさい。

問1 2020年3月以降のアメリカや日本の株価上昇局面において、値上がり率の高かったのは、どのような業種の企業であったか、その理由を含めて10行以内で論じなさい。

問2 ウイズコロナやアフターコロナの中、問1で答えた業種の企業のほか、今後、どのような企業の株価が上昇すると考えるか、その理由を含めて15行以内で論じなさい。

<以下、余白>

問題－B

企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）は進み始めているものの、それを成功させるための課題は多い。このような状況に関する下記の事項について論じなさい。

問1 ビジネスにおけるDXとは何かについて12行以内で論じなさい。

問2 企業がDXを成功させるための課題について12行以内で論じなさい。

<以下、余白>

2021年2月20日

2020年度実施（2021年4月入学）

立命館大学大学院 経営管理研究科（専門職学位課程）

論述試験問題（全方式共通）

<試験にあたっての諸注意>

- ・試験時間は、10時15分～11時15分です。
- ・持ち込み許可物件はありません。
- ・解答は別紙「解答用紙」に記入すること。

以下の**問題－A**もしくは**問題－B**のいずれか一つを選び、解答しなさい。
なお、解答は所定の解答用紙を使用し、問題記号を記してから始めること。

問題－A

日本企業では長らく長時間労働が常態化してきた。しかし、「行き過ぎた長時間労働は、様々な問題・リスクをもたらしている」として、近年、多くの日本企業が「働き方改革」を掲げ、長時間労働の是正に取り組んでいる。また 2019 年に施行された改正労働基準法では、「時間外労働(残業)」に上限が課されるなど、政府もこの動きを後押ししている。以上のことを踏まえて、以下の設問 1～3 に答えなさい。

- 問 1 行き過ぎた長時間労働が「従業員にもたらす問題・リスク」には、様々なものがある。その中から、あなたが「特に重大な問題・リスク」と考えるものを 2 つ以上、箇条書きで指摘しなさい。(なお、解答に際しては、①②などの番号をつけること。)
- 問 2 行き過ぎた長時間労働が「企業にもたらす問題・リスク」には、様々なものがある。その中から、あなたが「特に重大な問題・リスク」と考えるものを 2 つ以上、箇条書きで指摘しなさい。(なお、解答に際しては、①②などの番号をつけること。)
- 問 3 労働基準法の改正にみられるように、政府も、「働き方改革」を後押ししようとしている。しかし、「このような法律の改正だけでは、働き方改革は実現されない」という意見も多い。このような意見が出る理由を、10～15 行程度で論じなさい。

<以下、余白>

問題－B

自動車の電動化に向けた動きが、最近、高まっている。イギリスでは 2030 年までにガソリン車とディーゼル車の新車販売を禁止、米国カリフォルニア州でも 2035 年までにガソリン車の新車販売を禁止、中国では 2035 年までに新エネルギー車比率 50%以上が示され、日本でも 2030 年代半ばには乗用車新車販売で電動車 100%とのグリーン成長戦略が出されている。

- 問 1 各国において自動車の電動化が急速に推進されている背景について論じなさい。
- 問 2 自動車の電動化は、自動車産業における競争関係にどのような影響をもたらす可能性があるのかについて論じなさい。

<以下、余白>